

令和4年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業

(周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業)

－調査報告書－

令和5年2月

株式会社地域計画建築研究所

目次

| | | |
|----------|---|-----------|
| 1 | はじめに | 1 |
| 1-1 | 事業目的..... | 1 |
| 1-2 | 事業内容..... | 2 |
| 2 | 玄海町と広域の官民で構成される広域検討会の開催 | 3 |
| 2-1 | 広域検討会の開催概要..... | 3 |
| 2-2 | 開催結果..... | 5 |
| 3 | 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議開催のための事前準備 | 6 |
| 3-1 | 旧上場4町の観光の現状と課題..... | 6 |
| 3-2 | 事業者ヒアリングの実施..... | 7 |
| 4 | 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議の開催 | 11 |
| 4-1 | 共創会議の開催概要..... | 11 |
| 4-2 | 開催結果..... | 12 |
| 5 | 共創プロジェクトの試行 | 22 |
| 5-1 | 共創プロジェクトの企画..... | 22 |
| 5-2 | 共創プロジェクト試行結果..... | 25 |
| 6 | 広域観光圏の魅力の情報発信方法・推進体制の検討 | 27 |
| 6-1 | ヒアリング調査の実施概要..... | 27 |
| 7 | 令和5年度以降の活動の方向性 | 28 |

1 はじめに

1-1 事業目的

玄海原子力発電所の立地自治体である玄海町は、観光資産として「浜野浦の棚田」を有しており、ゴールデンウィーク期間を中心に多くの写真愛好家等が来訪しているが、町内に消費の受け皿が少なく、また時期もゴールデンウィークに集中するなどの課題があり、年間を通じた観光流動の拡大や消費促進による地域経済への波及効果を高めることが課題となっている。

町では令和2年度、観光戦略を策定し、観光施策を進めているが、交流人口の拡大には、町単独では観光資産や人的リソースが十分ではないという課題があり、その解決のために、玄海町を含む広域観光圏について、

- (1) 現状把握やポテンシャル調査などのマーケティング分析、地元観光関連事業者との協議
- (2) 周辺自治体と連携した広域観光の可能性と持続可能な観光事業について検証
- (3) 周辺自治体との体制づくりや広域観光ルート開発、プロモーション活動等の取り組みを段階的に進めていくことが求められている。

そのために、令和2年度及び令和3年度に引き続いて、九州経済産業局では、広域連携による観光振興のための取り組みを支援するとともに、魅力ある観光ルートの開発や受入れ体制構築に必要な調査事業を行うことを目的とする。

1-2 事業内容

令和4年度は、事業目的を達成するために下記の事業を実施する。なお、広域観光圏の基本エリアとして、本事業では玄海町、唐津市（唐津市のうち旧肥前町、旧鎮西町、旧呼子町）の旧上場4町を想定する。

1 玄海町と広域の官民で構成される広域検討会の開催

玄海町と唐津市、観光協会等の広域の観光振興に関係する官民で構成される広域検討会を立ち上げ、作成しているロードマップに基づき、アドバイザー又は実践者（以下「専門家」という。）によるアドバイスをもとに、令和4年度の活動計画を策定する。

2 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議開催のための事前準備

次項の共創会議を初回開催するにあたり、観光関連事業者の実態を把握し会議で取り上げるテーマを決めるなど、事前準備を行うものとする。

3 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議の開催

広域観光圏の基本エリアに立地する観光関連事業者（観光施設・宿泊施設・飲食店・直売所等の物販施設など）等に呼びかけて、エリア一体となった持続的な観光地域づくりに向けて、今後の連携プラットフォームとなる共創会議を立ち上げ、2回程度開催する。

4 共創プロジェクトの試行

共創会議で検討した共創プロジェクトを観光関連事業者等と調整の上、試行する。また、試行結果に基づき改善点や課題等の整理を行い、地域で継続して実施できるよう上記会議で観光関連事業者等にフィードバックするものとする。

5 広域観光圏の魅力の情報発信方法・推進体制の検討

地域が主体となって旅行会社向けに広域観光圏の魅力をより効果的にPRし、観光誘客につながるため、広域観光圏内における観光関連事業者のセールスツールの素案及び営業体制を検討し、その検討結果を基に2件程度試行的に旅行会社に営業活動を行う。

2 玄海町と広域の官民で構成される広域検討会の開催

2-1 広域検討会の開催概要

1 実施概要

令和4年度の広域検討会について、下記の概要で開催した。

| | | |
|-------------|----------------|--|
| 検討会の位置づけ・目的 | | 体験コンテンツの掘り起こしや広域観光ルートの試行・検証、各種会議 結果などを踏まえ、広域観光の推進体制や、観光事業、広域観光ルートの方向性等を 広域観光圏の各関係者（下記参照）と協議・検討し、広域観光を推進するための体制や事業内容等を含めた活動方針を整理する。 |
| 参加者 | 自治体 | 玄海町（企画商工課） 唐津市（観光課） |
| | 関係団体 | 一般社団法人玄海みんなの地域商社 一般社団法人唐津観光協会 唐津上場商工会 |
| | アドバイザー | 大方優子教授【座長】 村上和夫名誉教授 |
| | 事務局 | 九州経済産業局 株式会社地域計画建築研究所【事務局】 |
| 実施時期 | | 主な協議内容 |
| 第1回 | 令和4年 9月27日 | ・共創会議、共創プロジェクトについて ・旧上場4町での広域連携について |
| 第2回 | 令和4年 11月30日 | ・共創会議（第2、3回）のあり方 ・共創プロジェクト（事業者モニターツアー）の開催について |
| 第3回 | 令和5年 2月14日 | ・本年度の活動について ・広域観光圏の構築に向けた次年度以降の方向性・ロードマップについて |

2 アドバイザー

アドバイザーを以下に定め、検討会の運営を行った。

| 氏名・肩書 | 業務内容に関する専門知識・知見 | 検討会議における役割支援の視点等 |
|---|---|--|
| <p>大方 優子 九州産業大学 地域共創学部 観光学科教授</p> | <p>観光学を専門とし、観光者の行動・心理、観光産業におけるマーケティングの研究を行っている。福岡県観光審議会委員を務めた経験を有するほか、観光の専門家として、福岡県内を中心に多くの自治体で審議会委員等を務める。 ※令和 2、3 年度調査事業アドバイザー</p> | <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光のあり方、観光事業の方向性に係る助言等 ・その他観光政策全般に係る助言等 |
| <p>村上 和夫 立教大学 観光学部 名誉教授</p> | <p>観光学を専門とし、萩女子短期大学、横浜商科大学、立教大学に在籍、2018 年より現職。観光庁の「初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会」や「高等学校普通科分科会」座長を務めるほか、日本観光研究学会 評議委員等を歴任している。</p> | <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光のあり方、観光事業の方向性に係る助言等 ・教育旅行に係る助言 ・その他観光政策全般に係る助言等 |

2-2 開催結果

広域検討会の開催結果は以下の通りである。

①開催概要

| | 実施日時 会場 | 出席者 | 会議内容 |
|-----|--|--|---|
| 第1回 | 令和4年 9月27日(火) 14:00~16:00 玄海町役場4階 大会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ●玄海町(企画商工課):3名 ●唐津市(観光文化課):1名 ●地域商社:1名 ●唐津上場商工会:2名 ●九州経済産業局:4名 (現地2名、WEB2名) ●大方 優子氏(WEB) ●村上 和夫氏(WEB) ●地域計画建築研究所:3名 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. はじめに 3. 昨年度までの活動の振り返り 4. 今年度の活動について 5. 意見交換 (1) 共創会議、共創プロジェクトについて (2) 旧上場4町での広域連携について 6. 閉会 |
| 第2回 | 令和4年 11月30日(水) 13:00~14:30 玄海町役場4階 大会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ●玄海町(企画商工課):3名 ●唐津市(観光文化課):1名 ●地域商社:1名 ●唐津観光協会:1名 ●唐津上場商工会:1名 ●九州経済産業局:2名(WEB2名) ●村上 和夫氏(WEB) ●地域計画建築研究所:3名 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 第1回共創会議の振り返り 3. 今後の共創会議・共創プロジェクト(事業者モニターツアー)の実施に向けて 4. 意見交換 (1) 共創会議(第2,3回)のあり方 (2) 共創プロジェクト(事業者モニターツアー)について 5. 閉会 |
| 第3回 | 令和5年 2月14日(火) 13:00~14:30 玄海町次世代エ ネルギーパーク あすぴあ セミナールーム | <ul style="list-style-type: none"> ●玄海町(企画商工課):3名 ●唐津市(観光文化課):1名 ●地域商社:2名 ●唐津観光協会:1名 ●九州経済産業局:5名 (現地2名、WEB3名) ●大方 優子氏(WEB) ●村上 和夫氏(WEB) ●地域計画建築研究所:2名 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 第2回共創会議の振り返り・共創プロジェクト(事業者モニターツアー)及び第3回共創会議の振り返り 3. 意見交換 (1) 本年度の活動について (2) 広域観光圏の構築に向けた次年度以降の方向性・ロードマップについて 4. 閉会 |

3 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議開催のための事前準備

3-1 旧上場4町の観光の現状と課題

旧上場4町の観光の現状と課題を整理するため、玄海町及び唐津市へヒアリングを実施した。

| | 課題 |
|-----|---|
| 玄海町 | <ul style="list-style-type: none">・旧上場4町による連携が取れておらず、広域観光に向けたオーソライズができていない。・浜野浦の棚田、エネルギーパーク以外の町内の観光スポットの掘り起しができていない。 |
| 唐津市 | <ul style="list-style-type: none">・市として、旧上場3町（呼子町、鎮西町、肥前町）の事業者との連携が出来ていない。・呼子町のイカ以外に消費を生み出せるような観光資源づくりが進んでいない。・市における観光に関する情報の発信方法やターゲットが明確化していない。 |



旧上場4町の事業者の活動状況や広域連携の意向を把握するため
事業者ヒアリングの実施が必要

3-2 事業者ヒアリングの実施

玄海町及び唐津市へのヒアリングを受けて、共創会議を実施するにあたり、上場地域の観光関連事業者に広域観光に関する意向等を把握するためのヒアリングを実施した。

1 ヒアリング実施先

| 実施日時 | 開催方法 | ヒアリング先 |
|----------------|-------|---------|
| 令和4年 8月17日 | オンライン | 地元事業者 A |
| 令和4年 8月18日 | 対面 | 地元事業者 B |
| 令和4年 8月18日 | 対面 | 地元事業者 C |
| 令和4年 8月25日 | オンライン | 地元事業者 D |
| 令和4年 9月27日 | 対面 | 地元事業者 E |
| 令和4年 9月27日 | 対面 | 地元事業者 F |
| 令和4年 11月22日 | 対面 | 地元事業者 G |
| 令和4年 11月22日 | 対面 | 地元事業者 H |

2 ヒアリング結果の概要

①観光の現状

| | 内容 |
|-------------------|--|
| 玄海町 | <p><地域資源></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜野浦の棚田は人気観光スポットであるが、地元農家は来訪客のマナーの悪さから、来訪客に対してマイナスイメージを持っている。 ・ また、浜野浦の棚田の後継者の不足が課題となっている。 ・ <u>歴史などの観光資源となりうる要素の深掘りができていない。</u> ・ <u>町内で地ものを食べられる、買えることのできるお店がほとんどない。</u> ・ エネルギーツーリズムなど従来の観光とは違う切り口の旅行の可能性がある。 <p><観光商品></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬草事業を10年取り組んでいるが、栽培期間や技術の問題で普及していない。ノベルティのお茶を町が作り販売している。 <p><事業者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の事業者をまとめた会議を実施している。 ・ 広域連携に向けて、観光パンフレットづくりを今年度行っている。今後、遊びや食などテーマ別コンテンツの作成を行う。来年度は、テーマ別に深掘りした情報誌を作る。 |
| 呼子町 鎮西町 肥前町 | <p><地域資源></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼子町のイカは、旧上場4町の中で最もメジャーである。 ・ 鎮西町の名護屋城が有名で、黄金の茶室の取組が県主導で行われている。 ・ 肥前町は、いろは島のふれあい自然塾が有名で、日帰りツアーを販売している。他の3町と比べて観光には力を入れている印象がない。 <p><事業者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼子町では、コロナによる観光客の減少とともに、イカの漁獲量の減少により大きなダメージを受けている。 ・ 最近、若い人が呼子町で町おこしを行っている。 ・ <u>コロナ以降、団体旅行客が減少し、個人旅行客が増加した。これまで、団体客をメインにしていた事業者は苦戦を強いられており、団体客から個人客にターゲットをシフトする動きが見られる。また、EC販売を始めた事業者が増加した。</u> ・ 肥前町は、事業者としても外から人を呼びたいという印象はない。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼子町では、学生ボランティアに協力してもらい、古民家再生に取り組んでいる。 |

②旧上場4町による広域連携について

| | 内容 |
|---------------------------|--|
| 広域連携の 必要性・理由 | <ul style="list-style-type: none"> ・玄海町には肉や魚があるが、果物やデザートがないといった課題は、4町が連携することで解消できると思う。 ・<u>団体旅行客が食事をできる店がない。</u> ・呼子や名護屋城などの観光スポットに行くための交通アクセスが悪く、自家用車でしか行けない。また、休日のバスの増便なども難しく、観光客にとっては不便である。 |
| 広域連携の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・<u>新しいことを始める人はいるが散らばっていて、事業者間のつながりがない状況である。</u> ・<u>事業者は広域連携を意識しておらず、リーダー的な存在もない。</u> ・<u>観光だけでは漠然としているので、地域にお金を落とす仕組みや事業者の引き込み方法の検討が必要になる。</u> ・玄海町では、観光資源の掘り起こしを十分に行った上で、広域連携にしていくべきだと思う。 |
| 事業者として広 域連携での関わ り方 | <p><連携できること・連携できそうなこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐津市観光協会と地域商社が競合しないように、特徴を分けた情報発信を行う。 ・旧上場4町は体育施設が整っているので、スポーツ合宿を誘致するのも良いのではないか。 ・<u>着地型観光において、お金が落ちる仕組みが作れると良い。</u> <p><連携に向けた課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄海町の住民は変わりたいと思っているが、誰かがやるのではという状況である。 |
| 共創会議・共創 プロジェクトに ついて | <p><プロジェクトのテーマ・内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な取組事例の説明がほしい。 ・事業者ごとに課題が異なるので、似たような課題を持った事業者の意見をもとに、事業テーマを抽出してもらいたい。 ・呼びたい観光客のターゲットを決めて、その人たちが楽しむものを作り出す必要がある。 <p><議論の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の磨き上げのワークショップは既に行われているので、更に踏み込んだ内容の議論が必要である。 ・<u>オール玄海ミーティングと共創会議の棲み分けが必要。</u> ・参加者は、事業者のトップ以外の人にもお声掛けしてもらいたい。 ・オンラインツールを使用して会議を実施し、参加者の触れる機会が増えると良い。 ・食事をしながら話をするようなリラックスできる会議にした方が良い。 |

| | |
|--|--|
| | <p><期待する成果></p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業者同士のつながりを構築できると良い。・ 呼子町のイカを観光の入り口とし、そこからその他の観光スポットにつながるような観光ルートが構築できると良い。 |
|--|--|

4 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議の開催

4-1 共創会議の開催概要

1 実施概要

令和4年度の共創会議について、下記の概要で開催した。

| 検討会の位置づけ・目的 | | <p>令和3年度までに、広域観光ルートの検討・試行、大学生によるアイデアプレストなど広域観光の構築に向けた取組が実施された。昨年度のとりまとめとして、「個人旅行」、「教育旅行」、「ボランティアツーリズム」をターゲットにしたモデルルートの造成を今後の方向性として掲げられている。</p> <p>一方で、今年度広域検討会や事業者ヒアリングを通して、上場エリアにおける事業者間のつながりが少ないことや新型コロナウイルス感染拡大以降の旅行形態の変化による観光の対応などの指摘が挙げられていることから、事業者同士のつながりをつくるとともに、観光資源の掘り起こしを行い、旧上場4町の各町に観光の土台作りを行うことを目的とする。</p> |
|-------------|----------------|---|
| 実施時期 | | 主な協議内容 |
| 第1回 | 令和4年 10月21日 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 上場エリアの現状の把握 3. アドバイサーの講演 立教大学 村上名誉教授 ～観光の最新動向について～ 4. グループワーク 5. 閉会 |
| 第2回 | 令和5年 1月25日 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 上場エリアの現状の把握 3. グループワーク 4. 講評 5. 事務連絡 6. 閉会 |
| 第3回 | 令和5年 2月8日 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 共創プロジェクトの振り返り <p>※共創プロジェクトと同時に開催</p> |

4-2 開催結果

1 開催概要

| | 実施日時 会場 | 参加者 | 会議内容 |
|-----|---|---|--|
| 第1回 | 令和4年 10月21日(金) 14:30~16:30 玄海町次世代エ ネルギーパーク あすぴあ セミナールーム | <ul style="list-style-type: none"> ●地元事業者：1名 ●玄海町（企画商工課）：4名 ●唐津市（観光文化課）：1名 ●地域商社：1名 ●九州経済産業局：4名（現地2名） ●村上 和夫 氏 ●大方 優子 氏 ●地域計画建築研究所：3名 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 上場エリアの現状の把握 3. 講演(立教大学 村上名誉教授) ～観光の最新動向について～ 4. グループワーク ・上場エリアにある地域資源の良さ や課題に関する意見抽出 ・カスタマージャーニーマップの作成 5. 閉会 |
| 第2回 | 令和5年 1月25日(水) 13:30~15:30 玄海町次世代エ ネルギーパーク あすぴあ セミナールーム | <ul style="list-style-type: none"> ●地元事業者：16名 ●玄海町（企画商工課）：3名 ●唐津市（観光文化課）：1名 ●地域商社：1名 ●九州経済産業局：4名（現地2名） ●村上 和夫 氏 ●地域計画建築研究所：3名 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 上場エリアの現状の把握 3. グループワーク ・上場エリアにある地域資源の魅力 や身近に感じる課題についての意 見交換 ・モニターツアーのコンテンツの検 討 4. 講評 5. 事務連絡 6. 閉会 |
| 第3回 | 令和5年 2月8日(水) 16:40~17:30 玄海海上温泉パ レア研修室 | <ul style="list-style-type: none"> ●地元事業者：6名 ●玄海町（企画商工課）：2名 ●地域商社：1名 ●観光協会：1名 ●村上 和夫 氏 ●地域計画建築研究所：2名 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. モニターツアーの振り返り 3. 閉会 |

2 第1回開催結果

①アドバイザーによる講演の概要

- ・観光教育を進めるためには、学校教育と連携した地域理解とアイデンティティの創出、地域連携をベースとした”創る観光”の担い手を育成することが重要である。
- ・地域理解とアイデンティティの創出するためには、自分の住む地域について調査して分かった事柄を発信することや地域をどのように発展したら良いかを主体的に考え、考えたことを社会に発信することが必要である。
- ・地域の普段の生活から、観光の滞在シナリオを創り発信することで観光客の呼び込むコンテンツになる。
- ・観光資源と地域の課題を教育旅行や観光教育を通して、デザインすることが地域の魅力向上につながる。

②グループワークの概要

GW1 上場エリアの地域資源の掘り起こし

- ・上場エリアで身近に感じる課題や魅力的な地域資源をワークシートの地図上に書き出す。



GW2 カスタマージャーニーマップの作成

- ・GW1で挙げた意見をもとにテーマ設定を行う
- ・テーマに関する「ステージ」「行動」「感情」「サービス」についての意見を書き出す。



全体共有（各グループ5分程度で発表）

上場エリアの広域観光発展に向けた 共創会議を開催します

参加
無料

開催の目的

①事業者同士のつながりを創出する場

事業者同士が意見交換が行える交流の場をつくります。



②上場エリアの食・体験など観光を再認識する場

上場の食を味わいながら、オープンな環境で話し合いを行います。
また、専門家との意見交換を通して、観光の現状も分かります。



③新規プロジェクトを検討する場

勉強会やワークショップを通して新たなアイデア創出につながります。



*出典(イラスト):イラストAC

●日時 令和4年**10月21日(金)** 14:30~16:30 (開場 14:15)

●場所 **玄海町次世代エネルギーパーク セミナーホール**
佐賀県東松浦郡玄海町大字今村4560番地1

●対象 **上場エリアの観光に興味のある方**

プログラム

データでみる上場エリアの観光

玄海町・唐津市の観光に関するデータやGPSデータを用いた主要観光施設の入込状況など、上場エリアの現状をデータを用いてわかりやすく整理します。

話題提供：観光の最新動向について

新型コロナ流行後における旅行形態の変化や、今後の観光について講演してもらいます。

ワークショップ(意見交換)

テーマ：**上場エリアの地域資源を掘り起こし**

上場エリアにある観光資源の魅力や課題について意見交換を行います。

講師等プロフィール

村上 和夫(むらかみ かずお)氏

(講演者・ファシリテーター)

立教大学 観光学部 名誉教授

公益財団法人日本交通公社 理事

日本観光研究学会や日本観光ホスピタリティ教育学会の評議員であり、会長を務めた経験がある。立教新座中学校・高等学校校長を務めた経験があり、観光教育や教育旅行への造詣が深い。

大方 優子(おおかた ゆうこ)氏

(アドバイザー)

九州産業大学 地域共創学部観光学科 教授

観光学を専門とし、観光者の行動・心理、観光産業のマーケティングを研究している。福岡県内を中心に多くの自治体で審議員として参画している。

●お申し込み先(事務局)

(株)地域計画建築研究所(アルパック)
TEL: 092-283-2121 FAX: 092-283-2128
e-mail: masud-ry@arpak.co.jp 担当: 益戸

申込締切 **10月20日(木) 正午**

参加をご希望の場合は裏面をご確認いただき
FAXまたはメールにてお申し込みください

③グループワークの結果

【GW1 地域資源の掘り起こし】

| エリア | 資源名 | 内容 |
|-----|----------------|--|
| 玄海町 | 浜野浦の棚田 | 耕作者の減少 |
| | 仮屋湾遊漁センター | |
| | 玄海海上温泉パレア | |
| | 玄海エネルギーパークあすぴあ | |
| | 魚山人 | |
| | 白山神社 | 値賀川内の石積み |
| | 外津港の特攻船回転の艇庫跡 | |
| | 漁業振興のブリ積み | 養殖の餌やりと魚捌きを組み合わせた活動 |
| | 天狗岳 | |
| 呼子町 | 朝市通り | 夜遊ぶ所が少ない、ナイトフェス、温泉 |
| | 昔ながらの港町 | ヘリテージ、大学生ボランティアによる古民家再生 |
| | 七ツ釜 | |
| | 加部島の捕鯨見張り小屋 | |
| 鎮西町 | 名護屋城の陣跡、金の茶室 | |
| | レストランテ松島 | グランピング |
| | 馬渡島 | <ul style="list-style-type: none"> ・平戸から移設されたカトリック教会 ・島内の移動が難しい ・野生のヤギがいる |
| | 波戸岬キャンプ | |
| | 加唐島 | 白波 |
| 肥前町 | 大浦の棚田 | |
| | いろは島 | |
| | 高串温泉 | 泉質がトロトロ |
| | シラス漁 | |

【GW2 カスタマージャーニーマップの作成】

●1班：漁船体験

| | | | | |
|------|--|---|--|---|
| ステージ | | | | |
| 行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・船に乗る準備 ・ライフジャケットを着る ・イカダに移動 | <ul style="list-style-type: none"> ・餌やり(魚種：アジ) | <ul style="list-style-type: none"> ・取ってきた魚を捌く | <ul style="list-style-type: none"> ・食べる(魚せんべい) |
| 感情 | | | | |
| サービス | | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に魚を取る | | |

●2班：棚田での農作業体験

| | | | | | |
|------|--|---|--|--|-------------|
| ステージ | 13:00 町民会館 (バス移動) | 13:30 棚田到着 | 14:00 作業 | 16:00 作業終わり | 17:00 点灯 |
| 行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・受付をする ・バスに乗る | <ul style="list-style-type: none"> ・バスから降りる ・説明 ・物をもらう ・場所移動 ・歩く | <ul style="list-style-type: none"> ・さす ・歩く ・もらう | <ul style="list-style-type: none"> ・イカ焼きを食べる ・おにぎりを食べる | |
| 感情 | | | | | |
| サービス | <ul style="list-style-type: none"> ・バス | <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル ・地図 ・班分け | | | |

3 第2回開催結果

①グループワークの概要

GW1 上場エリアの地域資源の掘り起こし

- 上場エリアの魅力的な地域資源、身近に感じる課題や、地域資源での活動とそれに関するステークホルダーを地図上に書き出し



GW2 カスタマージャーニーマップの作成

- GW1で挙げた意見をもとに事業者モニターツアーで訪問する観光コンテンツを検討



全体共有（各グループの発表）

上場エリアの広域観光発展に向けた 共創会議 を開催します

目的

●事業者同士のつながりを創出する場

幅広い事業者が意見交換が行える交流の場をつくります。



●上場エリアの食・体験など観光を再認識する場

上場の食を味わいながら、オープンな環境で話し合いを行います。
また、専門家との意見交換を通して、観光の現状も分かります。



●新規プロジェクトを検討する場

勉強会やワークショップを通して新たなアイデアの創出につながります。

*出典(イラスト):イラストAC

参加
無料

日時

2023年 1月 25日 水
13:30 ▶ 15:30 開場 13:15 ~

会場

玄海町次世代エネルギー
パークあすぴあセミナーホール
〒847-1411 玄海町大字今村 4560 番地 1

プログラム

●話題提供

新型コロナウイルス感染症流行による旅行の変化や上場エリアの観光の現状、観光の最新動向などをご紹介します。

●ワークショップ：上場エリアの地域資源の掘り起こし

◇上場エリアにある観光資源の魅力や身近に感じる課題について意見交換を行います。

◇2月上旬に実施予定のモニターツアーのルートを考えます。

人気の観光スポット、興味はあるが今まで行ったことがないお店などを出してもらいます

※2月上旬実施予定のモニターツアーの参加費は無料です。

参加お申し込み お問い合わせ

参加をご希望の場合は裏面をご確認いただきFAXまたはメールにてお申し込みください。

※メールでの申込みは件名に「第2回共創会議参加申込み」とご記入ください。

事務局

(株)地域計画建築研究所(アルパック)
TEL : 092-283-2121 FAX : 092-283-2128
e-mail : masud-ry@arpak.co.jp 担当: 益戸

協力

一般社団法人 玄海町みんなの地域商社

③グループワークの結果

【上場エリアの地域資源の掘り起こし】

| エリア | 資源名 | 資源に関する意見 |
|-----|--------------------|-----------------------|
| 玄海町 | 浜野浦の棚田 | 夕日、結婚式での前撮り撮影、ガタリンピック |
| | 玄海エネルギーパーク あすぴあ | 公園で子どもを遊ばせる、子供連れに良い |
| | 玄海海上温泉パレア | 温泉、ワークショップの実施(椿油コスメ) |
| | 中山牧場 | 佐賀牛、離れの小屋、持込可能 |
| | 三島公園 | 景色が良い |
| | 池尻(普恩寺)漁港 | 昔、地元の子供が海遊びをしていた |
| | 仮屋遊漁センター | |
| | 轟木公園 | 夏のホタルがきれい |
| | 藤の平ダム | 桜 |
| | 仮屋湾 | タイのエサやり、遊覧船 |
| 呼子町 | マリンパル呼子 | 遊覧船ジューラ・イカ丸 |
| | 250年続く町並み | 日本最古のコンクリート造り |
| | イカ | 待ち時間が課題、ランチ |
| | 加部島 | 一本道、甘夏 |
| | 杉ノ原牧場 | 荒れた土地を畜産に活用 |
| | 呼子大橋 | |
| | 七ツ釜 | |
| | 百と十 vesper | |
| | 玄海正国の包丁 | 海外から買いに来る、職人の伝統継承 |
| | 玄海国定公園 | |
| Qサバ | | |

| エリア | 資源名 | 資源に関する意見 |
|-----|--------------------|------------------------------------|
| 鎮西町 | 名護屋城博物館・城址 | 黄金の茶室、陣跡 150 |
| | 波戸岬キャンプ場 | |
| | サザエのつぼ焼き | |
| | 加唐島 | カフェ、1,2月椿花開花、9月椿種取り |
| | 松島 | カフェ・グランピング |
| | 馬渡島 | キリシタン・仏教の歴史が残る |
| | 離島(小川・加唐・馬渡・向島・松島) | つり、カフェ、島から島は漁師や民宿の大將が連れて行く、歴史・食・景観 |
| | 道の駅桃山天下市 | |
| | 大望閣 | |
| | 波戸岬海中展望 | |
| | 豊臣秀吉の手植えの桜 | |
| | 玄海サーモン | |
| 肥前町 | いろは島 | カキ、景色 |
| | 大浦の棚田 | 夕日、カキ養殖 |
| | 高串温泉 | ヌルヌルの湯、レトロでローカル |
| | SUP | |
| | 鷹島肥前大橋 | 夕日、ツーリング |
| | 遠見番所公園 | 夕日、犬と散歩可、ツーリング |
| | 仮屋湾 | 景色が良い、釣り渡し船 |
| | ぼたとんと緑の丘 | |
| | 駄竹の棚田 | キレイ |
| | 食べ物 | ちりめん、タイ、ごぼう |

4 第3回開催結果

①開催概要

共創プロジェクト(事業者モニターツアー)について意見交換を行った。

モニターツアーで訪問した観光資源について、評価する点や課題点、それに関するステークホルダーなど事業者目線でご意見いただいた。

また、各訪問先の観光客へのおすすめ度やツアー全体に関する感想も共有した。

②開催結果

【モニターツアー訪問場所との今後の連携可能性】

| 場所 | 連携方法 |
|---------|---|
| マリンパル呼子 | ・色々なイベントで自社商品の販売に役立てたい |
| 呼子朝市 | ・呼子に来る観光客が、呼子来る前後に他の場所にも立ち寄ってもらえるような情報収集できるようにしたい |

【モニターツアー全体についての感想】

- ・地元でも行ったことがない場所、良い場所が多かった。
- ・事業者間の連携（情報交換）は定期的に必要だと感じた。
- ・事業者同士のつながりを強くしていくことが大切。
- ・様々な体験ができて楽しかった
- ・改めて上場エリアが連携することで、このエリアの地力が上がると感じた。
- ・もう少し時間をとり、ゆっくりとした行程が良かった

5 共創プロジェクトの試行

5-1 共創プロジェクトの企画

共創会議での議論により、共創プロジェクトとして、上場エリアの事業者を対象にしたモニターツアーを実施するとした。

1 開催目的

上場エリアの事業者に、身近にある上場地域の観光資源の魅力や課題を実感してもらうことを目的に、プロジェクトとして上場4町の観光資源を訪問する事業者モニターツアーを実施する。

なお、モニターツアーについては訪問先の事業者にもホストとして案内役を務めてもらうことで、観光資源の魅力への理解の深化を図る。

モニターツアーは会議と一体的に行い、ツアー終了後に、観光資源の魅力や課題、それに関係するステークホルダーなど事業者目線での意見交換を行い、参加者にその場でフィードバックを行う。

2 開催時期

令和5年2月8日（水）9：00～18：50

3 参加者

モニターツアーの参加者は11名であった。

4 実施行程

モニターツアーは下記の行程で実施した

| 行程順 | 場所 | 所要時間 | 内容 |
|-------|-------------|------|--|
| 9:00 | 呼子朝市・呼子の町並み | 60分 | 集合、ツアー開会挨拶 朝市散策・呼子の伝統建築の見学及び紹介 |
| 10:00 | マリンパル呼子 | 40分 | 遊覧船ジューラ体験 |
| 10:50 | (移動) | 25分 | |
| 11:15 | 名護屋城博物館 | 45分 | 展示物の紹介 |
| 12:00 | (移動) | 30分 | |
| 12:30 | 美食倶楽部 富高岩 | 90分 | 昼食：フレンチ |
| 13:30 | (移動) | 30分 | |
| 14:00 | 国民宿舎いろは島 | 90分 | 肥前町内でのアクティビティ体験及び海上アクティビティの紹介 ●いろは島～大浦の棚田～いろは島を自転車で周遊 |
| 15:30 | (移動) | 30分 | |
| 16:00 | 玄海海上温泉パレア | 40分 | コスメワークショップ |
| 16:40 | 玄海海上温泉パレア | 40分 | <第3回共創会議> ツアーに関する感想・意見共有 |
| 17:40 | (移動) | 20分 | |
| 18:00 | 浜野浦の棚田 | 20分 | 棚田イルミネーション見学 |
| 18:20 | | 10分 | 閉会 |
| 18:30 | (移動) | 20分 | |
| 18:50 | 玄海町役場 | | 解散 |

5 当日の様子



5-2 共創プロジェクト試行結果

1 観光資源別の意見

| 観光資源 | 評価できる点 | 改善点 | ステークホルダー |
|-------------|--|---|--|
| 呼子朝市・呼子の町並み | <ul style="list-style-type: none"> ・地区一体となって町並みを守っている ・古い建物が残っている ・伝統的な町並みが残る背景が聞けた ・近い場所だが知らなかったことが多い | <ul style="list-style-type: none"> ・町並みに関するガイド・チラシを観光客が分かりやすい場所に設置 ・町並みについての説明がないと分からない ・外国人に分かりやすいルート案内 | 染物屋 ⇒染物体験と組み合わせ |
| 遊覧船ジューラ | <ul style="list-style-type: none"> ・海中の景色が良い ・海を近くに感じることができる ・都会の人が喜びそう | <ul style="list-style-type: none"> ・船上からのエサやり体験 ・船内での魚の説明が少ない ・料金が少し高い ・冬場は避けたほうが良い | |
| 名護屋城博物館 | <ul style="list-style-type: none"> ・黄金の茶室 ・施設・展示が充実していて、歴史をわかりやすく学べる | <ul style="list-style-type: none"> ・滞在時間が長く取れない(お店がない) ・写真スポットがない | 道の駅桃山天下市 ⇒出張販売 九州オルレ ⇒コースに組み込む 唐津市 ⇒陣跡の作り込み |
| 美食倶楽部 富高岩 | <ul style="list-style-type: none"> ・旧保育園をうまく利用している ・田舎にない味わいがある ・味と量が素晴らしい | <ul style="list-style-type: none"> ・もっと気軽に使えると良い ・海側の景色を活かしてほしい ・鉄の柵を木製に作り替えた方が良い ・色々な人に知ってもらうことが必要 | |

| 観光資源 | 評価できる点 | 改善点 | ステークホルダー |
|------------|---|---|--|
| 自転車アクティビティ | <ul style="list-style-type: none"> ・アシスト付き自転車で楽に移動できる ・自然を感じられる ・普段味わえない体験で楽しい | <ul style="list-style-type: none"> ・地元の方（漁協）の話を聞けると良 ・久しぶりの自転車で、ギアなどの扱いが難しかった ・体力のない人への対応が必要 | 地元の漁協温泉 ⇒アクティビティとセット販売 情報メディア ⇒アクティビティに関する情報発信の強化 |
| 大浦の棚田 | <ul style="list-style-type: none"> ・展望台からの景色がきれい ・広大な景観、絶景 | <ul style="list-style-type: none"> ・案内板が少ない(展望台や駐車場の場所が分かりにくい) ・滞在時間が短い | 地元の方 ⇒棚田でイベント実施 |
| コスメワークショップ | <ul style="list-style-type: none"> ・女性や子どもが楽しめる。 ・上場エリアで作っている椿油の化粧品について知ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元での販売を増やした方が良い。 ・ロゴ、パッケージ ・問い合わせ先を明確にした方が良い | |
| 玄海海上温泉パレア | <ul style="list-style-type: none"> ・景色が良い温泉(夕日がとてもきれい) ・海が見える風景 | <ul style="list-style-type: none"> ・景色の良さのPR | |
| 浜野浦の棚田 | <ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーションが時間によって変化し幻想的な風景、絶景 ・4月下旬～5月上旬の夕陽が真ん中に落ちる時期の景色が特に綺麗 | <ul style="list-style-type: none"> ・お金を落とす手段がない ・時期がずれると美しさが減る | 呼子ナイトマルシェ ⇒コラボイベントの実施 |

6 広域観光圏の魅力の情報発信方法・推進体制の検討

6-1 ヒアリング調査の実施概要

共創プロジェクトで実施したモニターツアーのルートや、ツアーの際に訪問した観光資源について、旅行商品の可能性について、旅行会社を中心にヒアリング調査を実施した。

上場エリア、通常の活動内容や各町における観光の印象について聞くとともに、旧上場4町による広域連携の可能性や、共創会議・共創プロジェクトへの参加意向なども把握するために実施した。

1 ヒアリング実施先

ヒアリングは旅行会社を中心に3社依頼し、その内2社で実施した。

7 令和5年度以降の活動の方向性

前章までの検討結果をもとに、次年度以降の方向性を下記に示す。

ア 人材育成・ネットワークづくり

【本年度の到達点】

- ・本年度事業における共創会議や共創プロジェクトの開催は、これまで上場地域において取り組まれていなかった事業者間のネットワーク形成のキックオフとなった。
- ・今後も、本取り組みを契機とする事業者間ネットワークの取組を継続し、参加者の拡大や連携の深化に繋げていくことが重要である。

【活動の方向性】

- ・モニターツアーなどによる地域のネットワークづくりの継続
- ・勉強会・講演会等の継続的な実施による観光人材の育成
- ・広域連携を進めていくための体制構築

イ 観光商品開発（体験等）・販売

【本年度の到達点】

- ・共創会議の開催により上場地域の観光資源について事業者間での再確認ができるとともに、共創プロジェクトでのモニターツアー実施により、地元だからこそ体験してこなかった地域の観光資源の魅力の再認識につながった。
- ・今回のモニターツアー内でも参加者同士の連携のアイデアが出ており、ネットワークづくりを契機とするコラボレーションにより、観光商品を開発し、販売に繋げていく可能性も示唆された。

【活動の方向性】

- 地元事業者の観光資源を活用した体験・商品造成、造成支援
- 唐津観光協会等、地域での旅行業務資格を活用し、上場地域の商品を販売委託
- ふるさと納税による体験商品の販売

ウ プロモーション・情報発信（セールス）

【本年度の到達点】

- ・共創会議、共創プロジェクトを通じて、地域事業者への地域資源のPRを実施した。それにより地元での上場地域の魅力の再認識につながった。
- ・また、地域商社により上場地域を紹介する冊子が作成されており、今後はその媒体を使ったプロモーションを実施していくことが考えられる。

【活動の方向性】

- 情報誌・フリーペーパーを福岡で配布するとともに、地域内でのマイクロツーリズムを促進
- パンフ・Web・SNS
- 教育旅行等のセールス・情報発信

エ データ収集・分析・共有

【本年度の到達点】

- ・ 共創会議の開催にあたり、統計データやスマートフォンの GPS データ等を収集・分析し、地域事業者への情報提供を行った。
- ・ 今後は、継続的な情報収集を行うとともに、分析結果を地域で共有し、課題の解決に繋げていくことが必要となる。

【活動の方向性】

- ビックデータや分析ツールの運用・プロモーション結果共有
- 上場地域来訪者へのアンケート調査 など
- HP アクセス状況

オ 活動資金調達

【本年度の到達点】

- ・ 本年度の共創会議、共創プロジェクト等については、本事業内での実施となっている。
- ・ 今後、ネットワークづくりや商品開発、プロジェクトの実施に向けて自走可能な資金獲得を行っていくとともに、その基盤づくりを行っていくことも必要である。

【活動の方向性】

- 町の予算以外に観光庁等予算も活用

